

⑥ 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症が、採用・就職活動に与えた影響は？

選考時期の後ろ倒し、 選考のWeb化などが起こった

2021年卒の就職・採用活動は、新型コロナウイルス感染症の流行状況や、感染拡大防止に向けた政府方針などに影響を受けた。ここでは、この1年の動向と就職・採用活動への影響を見ていく。

まず、この1年の動向を振り返ると(図①)、20年1月に国内初の感染者が確認されて以降、感染は広がり続け、2月20日、リクルートキャリア(※)が『リクナビ2021』の合同企業説明会の中止を発表。2月26日には、政府からも全国的なスポーツ、文化イベント等の中止要請が出され、企業説明会はオンライン実施へと移

っていった。そして、4月7日に7都道府県に、4月16日には全国に緊急事態宣言が発出され、各都道府県で外出自粛要請が出されたことで、面接選考も、対面ではなくWebで実施する企業が増加。緊急事態宣言が解除されるまで対面での面接を見送る企業や、宣言の解除を待たずに内々定出しまでのプロセスを全てWebで行う企業など、企業も対応に追われ、対応方針もさまざまだった。

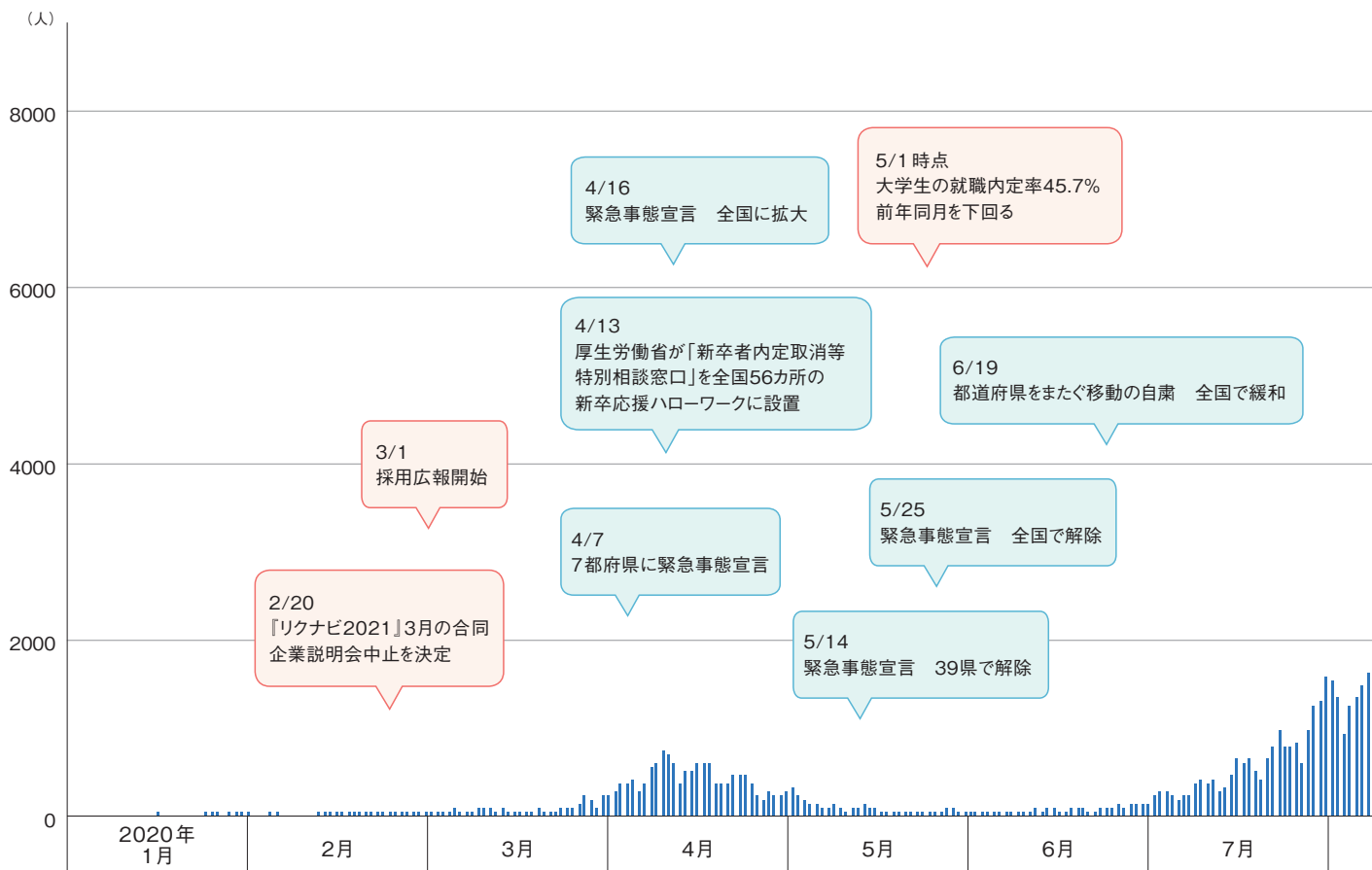
人事担当者に21年卒採用における新型コロナウイルスの影響の有無を聞いたところ、「影響はあった」と答えた企業は86.8%、「影響はない」と答えた企業は13.2%だった(P19・グラフ②)。学生においても、就職活動で「影響を受けた」と

答えた学生が61.5%おり(P19・グラフ③)、企業・学生の多くが影響を受けたことがうかがえる。具体的な影響として、学生からは「本社に訪問させていただく機会がなくなり、Web上でのものが多くなり、実際の企業の空気や働く環境が不透明になった」(静岡県・男性)、「受けたいと思っていた選考が中止になった」(岐阜県・女性)、などの声が挙がった。また、人事担当者に内定を取り消した学生がいたかどうか聞いたところ、「一部を取り消した」(13.4%)、「全員を取り消した」(2.1%)と回答。合計すると約15%に上った。

政府も企業の雇用維持および若年者雇用対策として、新型コロナウイルス感染症の影響で内定取り消しや入社時期

※2021年4月より事業統合でリクルートに変更

① 新型コロナウイルス感染症の国内発生状況と国の動向、採用・就職活動トピックス





の繰り下げにあった学生を対象とした新卒者内定取消等特別相談窓口を全国56カ所の新卒応援ハローワークに設置(4月13日発表)、日本経済団体連合会をはじめとした4つの経済団体に対する新卒者等の採用維持・促進に向けた配慮の要請(10月27日)などを行った。

このような影響や動きを経て、21年3月卒業時点の大学生(大学院生除く)の就職内定率は96.1%となり、前年同月と比べて0.7ポイント増加。5月時点から12月時点まで全ての調査月で前年を下回っていた状況から、最終的には前年と同水準という結果になった。

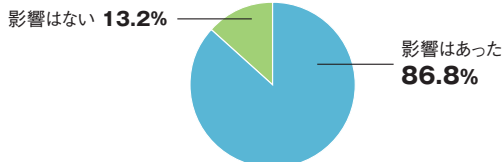
次ページでは、調査データをもとに、影響をより詳しく見ていく。

企業

約87%が、21年卒採用に
新型コロナウイルスの「影響はあった」と回答

② 新型コロナウイルスによる2021年卒採用への影響

※2021年卒採用実施との回答者/単一回答



「影響はあった」回答企業のうち93.5%が、21年卒採用の活動プロセスを「全体的に」または「一部」見直したと回答した。

(第4回 人事担当者対象調査 3月時点)

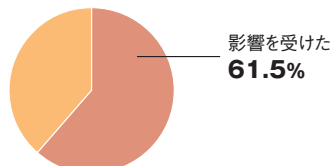
学生

約6割が就職活動において
新型コロナウイルスの「影響を受けた」と回答

③ 就職活動において「新型コロナウイルス」の影響を受けたと回答した学生の割合

※就職活動を経験した学生/複数回答で聴取した中の「就職活動」の回答割合

※生活や学業、就職活動などにおいて「新型コロナウイルス」の影響を受けたものは、P21・グラフ⑤を参照



生活や学業、就職活動などの項目から新型コロナウイルスの影響を受けたものを複数回答で聴取した結果、61.5%が「就職活動」を選択した。

(大学生の就職状況調査 2021年卒)



10月27日の4大臣による経済団体への協力要請に伴い、11月20日、経済産業省は、日本の地方経済を牽引する「地域未来牽引企業」、世界で活躍する「グローバルニッチトップ企業」など選定企業のうち、20年度新卒採用を継続する地方の中堅・中小企業503社を「新卒採用継続企業」として公表。

10/27
新卒者等の採用維持・促進に向けて、厚生労働大臣ら4大臣が経済団体に協力を要請

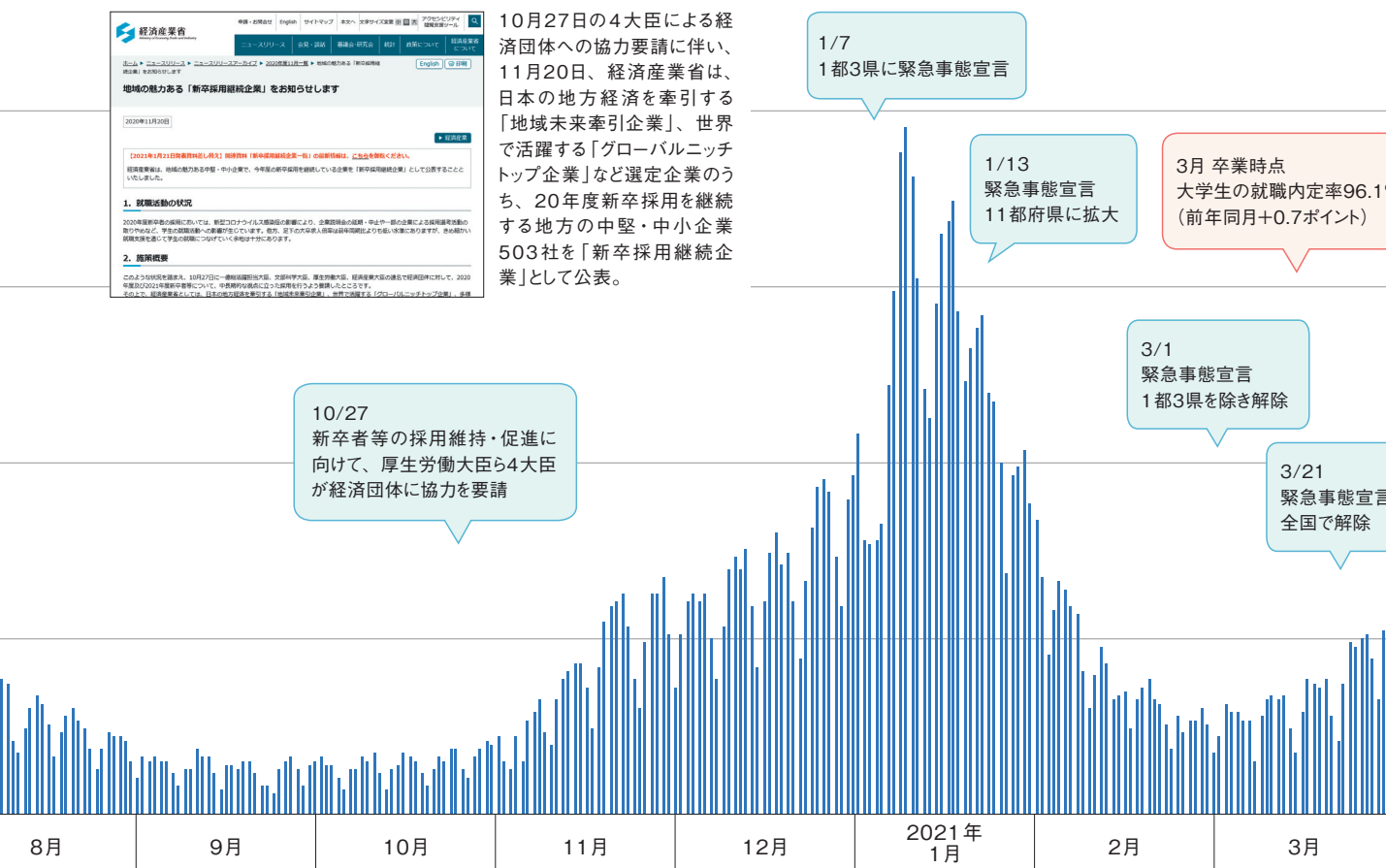
1/7
1都3県に緊急事態宣言

1/13
緊急事態宣言
11都府県に拡大

3月 卒業時点
大学生の就職内定率96.1%
(前年同月+0.7ポイント)

3/1
緊急事態宣言
1都3県を除き解除

3/21
緊急事態宣言
全国で解除



厚生労働省発表「陽性者数」データより作成
※各報告日時点の集計値を記載しているため、各自治体のホームページ等で公表されている数値と異なる場合がある

6 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症が、採用・就職活動に与えた影響は？

1 オンライン導入と費用の変化

オンライン化により、活動にかかる費用が減少

新型コロナウイルス感染症により、採用・就職活動プロセスのオンライン化が急速に進展した。2021年卒採用実施企業のうち、74.7%がWebでの自社説明会・セミナーを、69.8%がWebでの面接を実施したが、別途行った人事担当者への調査では、自社説明会・セミナーは65.1%が、面接は76.7%が、当初からではなく新型コロナウイルスの影響を受けてWeb実施を決定したと回答(グラフ①)。一方、学生は「慣れてくるとスケジュールが立てやすかった」「両方を経験して、Webの方がいいと思った」など、経験を重ねることで順応していった様子が見られた(P24・グラフ②)。

また、オンライン化により、採用・就職活動にかかる費用減と、地域間格差の減少も生じた(P13、P17参照)。P17で学生の就職活動全体にかかった金額の平均が20年卒に比べて約4万円減少したことに触れたが、地域別に見ても6地域全てで減少した(表②)。なお、インターンシップや入社式、入社後の研修・勤務などでもオンライン化が進んでいる。



オンライン化で時間と交通費を節約できた

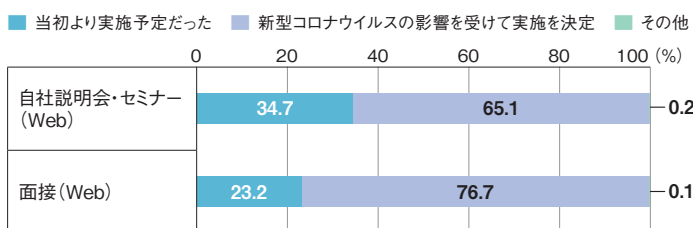
● 商社内定・文学部

九州から地域を問わずに就活していたので、オンライン化によって時間と交通費を節約できたし、Web説明会だと自宅から気軽に参加できたので、さまざまな企業を知れて視野が広がりました。Web面接で接続が途切れることが何度ありましたが、その分、時間を延長してくださることが多く助かりました。延長や開始時刻の遅れなどに備えて次のWeb面接まで1時間は空けるなど、余裕のあるスケジュールを組むようにしました。

企業

① 新型コロナウイルスによるWebでの実施状況

※2021年卒採用活動プロセスで「実施・予定」との回答者／各項目単一回答



(第4回人事担当者対象調査 3月時点)

学生

② 地域別/就職活動全体にかかった平均金額

※「1円」以上を使用した大学生/実数回答

(円)

	①2021年卒 (2020年6月12日時点)	②2020年卒 (2019年7月1日時点)	差①－②
北海道・東北	94,468	140,861	－46,393
関東	81,833	117,374	－35,541
中部	83,776	132,900	－49,124
近畿	97,263	131,201	－33,938
中国・四国	116,654	139,967	－23,313
九州	92,717	156,989	－64,272

(2021年卒 就職プロセス調査 6月12日時点調査)

2 スケジュールの変更

緊急事態宣言の影響もあり、採用活動は後ろ倒し

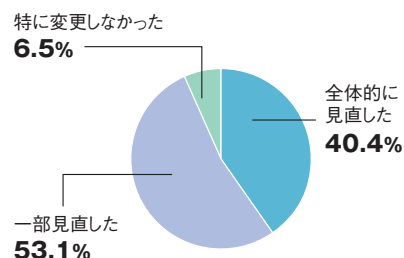
2つめの影響として、採用スケジュールの変更が挙げられる。P5、P12などで触れたように、企業の内々定・内定出しの開始時期として、3月までは20年卒よりも開始企業の割合が高かったが、4・5月は前年を下回り、5月までの累計も前年より減少した。21年3月に人事担当者に行った調査で「新型コロナウイルスの影響はあった」と回答した人事に採用活動プロセスを見直したかどうか聞いたところ「全体的に見直した」が40.4%、「一部見直した」が53.1%と、9割以上が見直していた(グラフ③)。また、20年9月に人事担当者に行った調査では、66.9%が10月以降追加採用を実施予定ないし実施を検討中だった(※)。

学生からは「ある企業では、Webテストは2月に受けたのに、コロナの影響で社内方針が決まらないとのことで連絡がなくなり、5月に『1次面接(Web)が6月に決まりました、予定を空けておいてください』と連絡が来て対応の遅さを感じた」という声も聞かれるなど、対応に苦慮した企業も。また、秋冬以降に採用継続する企業も多かった。

企業

③ 新型コロナウイルスによる採用プロセスの見直し

※2021年卒で「新型コロナウイルスの影響はあった」との回答者／単一回答



(第4回人事担当者対象調査 3月時点)

※【速報版】第3回人事担当者対象調査 9月時点より



3 学生の志向の変化

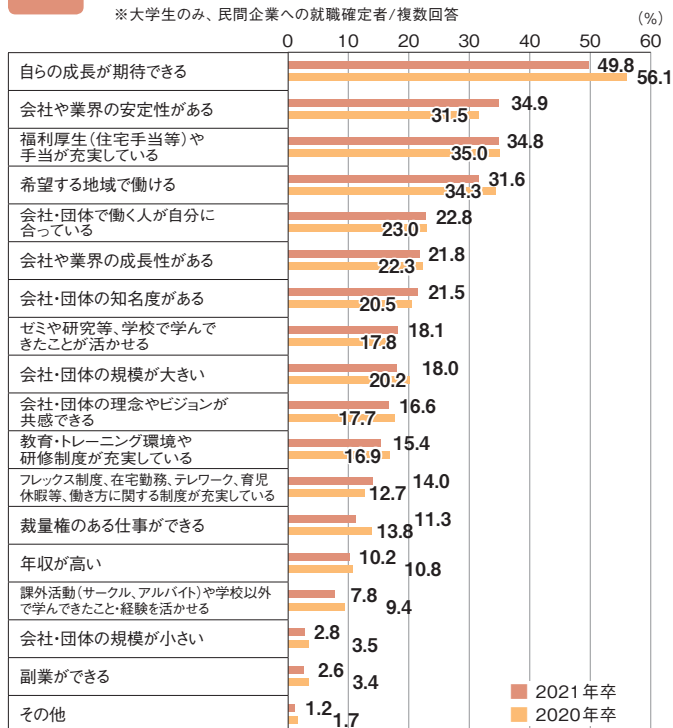
安定性を就職先の決め手とする学生が微増

学生の志向にも変化が見られた。民間企業への就職が確定した大学生に対して、就職先を確定する際に決め手となった項目を聞いたところ、最も多くの学生を選んだのは前年と変わらず「自らの成長が期待できる」(49.8%)だったが、「会社や業界の安定性がある」が34.9%と、前年から3.4ポイント増加(グラフ④)。確定している進路でも、公務員・教員は20年卒に比べ微増した。また、P17で触れたように、キャンパス所在地域内での就職を選択する学生の割合や、首都圏出身の学生において地方で働きたいと考える学生の割合も増加傾向にある。学生からは、「コロナによって、やりたいことと安全な場所で働くことを優先に考えるようになった」(愛知県・女性)、「関東で就職するつもりが就職活動に行けず、県内就職することにした」(青森県・女性)などの声が聞かれた。テレワークでの働き方に関する意向も調査したところ(※)、「働いてみたい」(33.7%)、「どちらかという働いてみたい」(33.8%)を合わせて67.5%の学生が意向を示した。

※大学生の就職状況調査 2021年卒

学生 ④ 就職先を確定する際、決め手になった項目

※大学生のみ、民間企業への就職確定者/複数回答



(2021年卒 就職プロセス調査 3月卒業時点調査)

4 学生生活全般

授業のオンライン化、アルバイト就労率の減少など、多岐にわたる影響が

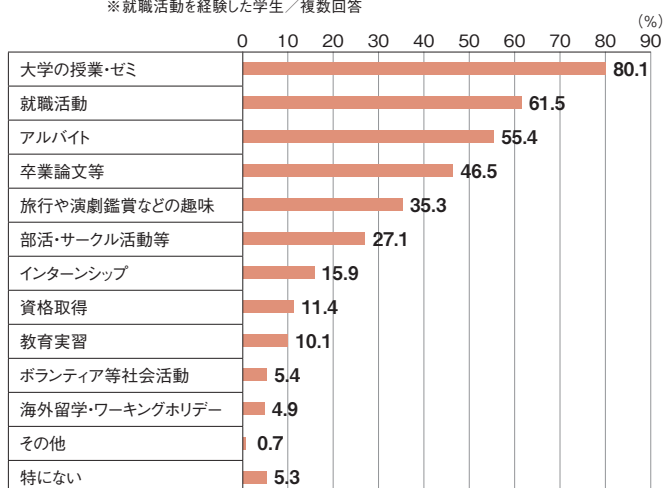
最後に、学生生活への影響を見る。就職活動を経験した学生に対して、生活や学業、就職活動などにおいて新型コロナウイルスの影響を受けたものを聞いたところ、最も多かったのは「大学の授業・ゼミ」で80.1% (グラフ⑤)。次に、「就職活動」(61.5%)、「アルバイト」(55.4%)、「卒業論文等」(46.5%)が続き、影響範囲は多岐にわたっていた。

全国大学生生活協同組合連合会が2020年10~11月に実施した調査によると(※)、調査時の大学4年生の「最近1週間の授業形態」は「対面授業のみ」が2割弱、「オンライン授業のみ」が約3割、「対面授業とオンライン授業の併用」が約3.5割で、オンライン授業の多さが分かる。また、同じく大学4年生の4~9月のアルバイト就労率は前年の82.0%から73.6%となり8.4ポイント減少、アルバイト収入の平均額も減少した。経済面で大きく打撃を受けた学生もあり、支援策を打ち出す大学や公的機関も見られた。

※全国大学生生活協同組合連合会「CAMPUS LIFE DATA 2020」より

学生 ⑤ 生活や学業、就職活動などにおいて「新型コロナウイルス」の影響を受けたもの

※就職活動を経験した学生/複数回答



(大学生の就職状況調査 2021年卒)